

第104回 東葛しぜん観察会

干潟の生き物と遊ぼう in 三番瀬

鈴木俊二 (我孫子市)

日 時：2014年7月27日(日) 10時～12時30分
場 所：ふなばし三番瀬海浜公園(船橋市)
参 加 者：57名(うち子ども31名)、指導員13名
担当指導員：山口正明、田島正子、鈴木俊二

「干潟って何?」「三番瀬?」の説明から始まった東葛しぜん観察会唯一の海辺の観察会。大勢の参加者が集合して、出発点は子供の元気な声や小さいこの氣勢で活気あふれる開始でした。干潟の生き物と遊ぼうを目標に子どもたちに直接生き物と接して、遊びながら生き物の暮らしや環境を体験してもらうことで干潟に移動しました。班を4つに分けてそれぞれに指導員3名が担当しましたが、全ての班で早速子ども達がカニやヤドカリの採取に夢中になり、用意したメニューを始めるのに苦労するほど干潟の生き物採取に熱中していました。



ゴカイや貝さがし

最初のメニュー「かににとらめっこ」、そして「ヤドカリの競争(牛乳パックの中と水中でどのヤドカリが枠から出るか)」、と進み「アサリの砂もぐり競争」では最高に盛り上がりました。

観察中に見た子ども達のしぐさ

①大きなカニを採取して得意顔の子、②カニの巣穴周りの小さな砂粒と大きな砂粒を指で確かめる子、③沢山のヤドカリをゲットした女の子、④クラゲを踏まないように迂回する子、⑤小さなエビをすくってカップに入れて見る子、⑥おそろおそろ触るタマシキゴカイ、⑦ヤドカリ競争で一番になりシールをもらう子、⑧大きなアサリが縦になって砂にもぐる様をみて眼が点になる子とオオット驚嘆したママとパパ、⑨生き物採集でバケツに沢山の貝・カニ・ヤドカリ・魚・エビをいれ重そうに持つ子、どの子も笑顔で満足そう。

若い親達は子ども中心に子どもの自然観察、体験を積極的に応援、感心させられた観察会でした。(筆者の子育のときはとても出来ていなかったと思う)。自分が夢中になって孫をほったらかしのおじいちゃんもいましたが。最後は少し日陰に移動して、採集した生き物をバット等に入れて、田島さんの解説やアサリの浄化作用、実体顕微鏡での観察で、あっという間に時間が過ぎ、終了しました。最後はカニの折り紙をもらってにっこり、全て終了しました。

猛暑でしたが少しの風と水分補給に気をくばり一人の熱中症も出さずに無事終了出来ました。

【観察した生きもの】

アオサ、オゴノリ、ミズクラゲ(死骸)、タテジマイソギンチャク、アサリ、シオフキガイ、イボニシ、アラムシロガイ、タマキビガイ、アカニシ卵のう、コメツキガニ、タカノケフサイソガニ、ユビナガスジエビ、ユビナガホンヤドカリ、ニホンスナモグリ、ヨコエビ、シロスジフジツボ、フナムシ、タマシキゴカイ、マハゼ、ボラ、シモフリシマハゼ